特集「人とコンピュータの新しい相互作用系」の編集にあたって

上 林 憲 行†

本特集は，情報処理学会のヒューマインインタフェース研究会（主査：間瀬健二），グループウェア研究会（主査：岡田謙一），情報メディア研究会（主査：上林憲行）の3研究会が合同で企画提案したものである．3研究会は，ヒューマン系とコンピュータ系のあり方をそれぞれ独自の視点から研究会を運営してきましたが，97年からの年一回の合同シンポジウムであるインタラクションを協賛，共催で企画開催し，2000年2月下旬には，第4回目を迎えることができました．このインタラクションには，新しい研究の価値観，新しい研究発表の試み，新しい研究コミュニティの形成という共通目標を掲げ，多くの研究・技術者の参加をいただくようになりました．毎年参加者は5割アップで現在は300人以上の参加者がある本学会の中でも屈指のシンポジウムとなりました．新しい価値観によるシビアな論文審査，IT研究の成果を作品として発表しその本質を理解してもらうとともに参加者と対話して研究交流や触発の場を提供するインタラクティブセッション，そして参加者をエンカレッジするためにプログラム委員会が選定するベストペーパー賞，さらにインタラクティブセッションでは参加者からの評価を基に選定されるインタラクティブ発表賞を設けています．こうした，3研究会の試みであるインタラクションの発表成果を多くの方々に理解していただくとともに，さらに広範な方々からの研究論文を募り，本特集号を企画しました．

企画提案の趣旨は，次の通りです．コンピュータとネットワークが企業，家庭，学校，コミュニティに浸透し社会のインフラとして認知されそのインフラを前提とした，コミュニケーションパラダイムの変化，ビジネスプロセスパラダイムの変化，情報流通パラダイムの変化，経済パラダイムの変化等がインタネットタイムで進行してきています．こうした状況下にあって，コンピュータと人（組織，共同体，社会）の基本的な関係についても根源的な見直しが要請されてきています．環境に埋め込まれたコンピュータ・センサー群（ユビキュトスコンピューティング），モバイル・ウェアラブルコンピュータ（身体拡張のメディア）の進展，様々な自律ロボットやネットワークエージェントの示唆する世界（分散インテリジェンス協調）は，従来のディスプレイ（窓）のあるPCを想定したグラフィカルユーザインタフェースの世界を大きく変えて行くことが予感されます．コンピュータが人にあわせる主従的な構図を前提とするインタフェース・インタラクション関係（適応関係）から，コンピュータ（環境，身体拡張メディア）と人（社会）が共生し相互作用の中でコンテキストに応じたベストマッチが自律的に構築される関係へ本質的に変化する兆しが明らかになってきました．HI研究会・IM研究会・GW研究会等が中心に進めてきたトランスデスプリナリな「インタラクション」シンポジウム（'97，'98，'99，2000）でも年々この流れが強く意識されてきています．こうした変化の潮流に対する萌芽的なアイディアやグランドチャレンジに関連する先駆的な研究や実験，作品，評価・分析，考察に関する論文を広く募集しました．結果としては，今までの本学会の既存の研究コミュニティを超えた分野からの投稿が多数あり，この分野の多様性を反映して大変多彩な論文が採録されました．学会の両翼を広げる目的はそれなりに成功しました．しかし，審査基準等に工夫をしないと新しい領域の論文を本当に受容できるかという課題も残りました．今回のゲストエディタ制を活用し本分野の研究を特集号としてまとめて掲載することは，研究者のレベルアップとインセンティブ向上に寄与するものと思われますし，情報処理学会の研究コミュニティの両翼を拡大するのためにもまた新しい研究成果の価値観を浸透させることに大変意義のあることと考えます．なお，本特集はゲストエディタ制度により，以下の特集編集委員会の責任で編集を行った．厳正な審査にご協力いただきました委員各位には紙面を借りて心より感謝申し上げます．

[人とコンピュータの新しい相互作用系] 特集編集委員会

- 委員長：上林憲行（山形大）
- 副委員長：間瀬健二（ATR），岡田謙一（慶応大）
- 編集委員（順不同）
  小澤英昭（NTT），竹林洋一（東芝），田中　譲（北大），垂水浩幸（京大），辻野嘉宏（阪大），中内　靖（防衛大），中小路久美代（奈良先端大），原田悦子（法大），平川秀樹（東芝），松岡　聡（東工大），美濃導彦（京大），森島繁生（成蹊大），安村通晃（慶応大），山本吉伸（電総研），暦本純一（SONY–CSL）

† 山形大学工学部情報科学科